熊本県立大学 CPD講座　共催 熊本県看護協会

疫病との闘い 熊本

熊本でもこれまで幾多の疫病に見舞われてきました。
江戸時代には、麻疹や赤痢といった疫病が繰り返し流行し、なかでも天然痘は致死率が高く、恐れられてきました。
大正時代のスペイン風邪では、熊本の人口の半数が感染し、約７千人もの死者がでました。
このように多くの犠牲を払いながらも、それらを乗り越えてきました。現在、新型コロナとの懸命な闘いが行われています。
これらの疫病との闘いの歴史を振り返り、そして新型コロナに立ち向かう看護職の姿を知ることは、視野を広げ、「未曽有」という言葉で代表される閉塞感を打破することにつながります。
新型コロナ対応へ向けた更なる連携を強め、将来の展望を探る一助になるとも考え、熊本県看護協会の共催をいただき、講座を開催します。
医療関係者、行政関係者だけでなく、広く皆様にご案内します。

日　時　2021年12月18日㊏13：00～16：00

zoom ライブ配信

講座内容

1. 13：00
江戸、天然痘との闘い
熊本県立大学　文学部　准教授
大島 明秀

2. 14：00
大正、スペイン風邪流行と熊本
熊本県立図書館　学芸調査課長
丸山 伸治

3. 15：00
令和、コロナに立ち向かう看護職
熊本県看護協会会長
本 尚美

募集期間　2021.11/30㊋～12/12㊐

受講料　1,000円

申し込み方法　熊本県立大学HPに掲載している応募フォームよりご応募ください。

大学ＨＰはこちらから
公立大学法人熊本県立大学

熊本県立大学
Prefectural University of Kumamoto

【お問い合わせ】　熊本県立大学　地域連携政策センター
TEL　096-321-6612
✉　renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

江戸、天然痘との闘い

天然痘は致死率が高く、古くから世界中で恐れられていた伝染病です。
世界中で流行が繰り返され、多くの犠牲者が出てきています。日本でも直近の流行が１９４６年にあり、約３,０００人が死亡しております。
種痘の普及により、１９８０年にＷＨＯは天然痘の世界根絶宣言を行いました。
江戸期の熊本藩でも、この種痘の普及に尽力した人物がいました。熊本藩医の高橋春圃と医者の寺倉秋堤などの奮闘をお伝えします。

大島准教授　略歴等

2008年3月九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程修了（博士：比較社会文化）
同年4月熊本県立大学文学部講師
2010年4月より同准教授

著書に『「鎖国」という言説』（ミネルヴァ書房、2009）、『熊本洋学校（1871-1876）旧蔵書の書誌と伝来』（花書院、2012）、『細川侯五代逸話集』（熊日新書、2018）など

大正、スペイン風邪流行と熊本

「忘れられたパンデミック」とも称される、およそ百年前に世界中で蔓延したスペイン風邪。これまで熊本での状況はあまり注目されてきませんでしたが、関係資料を丹念にたどれば、県内の死者数が約７,０００人にもおよぶ、大きな出来事であったことが確認されます。
本講演では、内務省の報告書や当時の新聞記事などをとおして、スペイン風邪に対し当時の熊本県民がどう向き合ったのか、“くまもとの記憶”の一端をひもときます。

丸山学芸調査課長　略歴等

１９８７年４月～熊本県教育庁文化課に２３年にわたり勤務。この間、文化財調査、文化財の国・県指定及び管理、文化振興、世界遺産登録等に従事

２０１３年４月～　熊本県立図書館勤務
この間、同館に併設の「くまもと文学・歴史館」の開設準備及び開館後の館の運営に従事

２０１５年４月～　現職

令和、コロナに立ち向かう看護職

今、私たちは新型コロナウイルスの感染拡大により大きな影響を受けています。
人々の生活そのものも不安や不自由さを強いられ、医療への負担も増大し、看護職にも様々な役割が求められています。
今回は、看護のこと、新型コロナウイルス感染症への看護職の対応そして熊本県看護協会の取組みをお話しします。

本会長　略歴等

１９７９年３月　熊本大学医学部附属看護学校卒業
２０１７年９月　熊本県立大学大学院アドミニストレーション研究科看護管理専攻修了

１９７９年４月　熊本大学医学部附属病院入職
２０１２年４月　同病院看護部長
２０１８年３月　同病院退職
２０１８年６月　熊本県看護協会常務理事
２０２０年６月　同協会会長

２０１９年　瑞宝双光章　受章
２０１９年　日本看護協会会長表彰